

武田先生も心配してオルゴンリングを当ててくださった。救急隊のときばきとした処置のあと、クレメンテ君は救急車で病院に運ばれていきました。後からわかったことですが、幸い大事に至らず、4日後には学校に行けたそうで、ほっとしました。

とはいえ、その日はどうなるか先が見えず、不安なままエドアルドさんのお宅で一人待っていると、突然若い男女が現れ、「あれ、聞いてない？ 荷物を全部持って僕のうちに来てください」とその男の子、エマヌエル君が言うのです。慌てて洗濯し終わったばかりの胴着やら何やら全部をスーツケースに突っ込んで、女の子（デニッセさん）の運転で彼のお宅へ移動です。行ってみると、大きなプールのある広いお宅で、上品なお母様と弟さんがいらっしやいました。芸術家一家らしく、ご本人はピアノ専攻の大学生、お兄様はドイツでバイオリンを弾いているとのことでした。ともあれ、突然私のために自分の部屋を空け渡し、階下のソファで寝る羽目になってしまったエマヌエル君だったのですが、このお宅はマヌエル先生のお宅にほど近く、翌日からの観光への出発のピックアップに都合がよかったです。



マヌエル先生と門人の方々の連携のすばらしさを教えてくれた事件でした。



そして、いよいよサンチャゴから五百キロ離れたピスコ・エルキへの観光が始まると、マヌエル先生と奥様のマイテさん、陽気で冗談好きなサイコロジストのロドリゴさんの車3台での移動となり、このお三方が武田先生はじめ私たち日本人9人を至れり尽くせり、楽しませていただきました。厳選された観光ポイント（葡萄から手作業で作る蒸留酒ピスコの製造工場・ビクーニャの天体観測所など）、料理が美味しいだけでなくある時はアンドスの山々を、またある時は海を目の前にした景色抜群のレストラン、コテージ形式でプールもあるホテル、慣れた手つきのパーベキュ、どれもこれも皆さんの心遣いがありがたく、最上級のもてなしを体験させていただきました。

観光から帰った日の夜の稽古の後、さよならパーティーを道場で開いてくださったことも、決して忘れることができません。道場の一角がキッチンに早変わりし、肉を焼き、サラダを作り、皆さんの協力で手作りのパーティーを催していただきました。ありがたい限りです。

ところが、感動も束の間、エマヌエル君のお宅が留守で、残してきた私のスーツケース

スが持ち出せません。旅の荷物のままで、再びエドアルドさんのお宅に泊めていただき、チリ最後の不安な夜を過ごしました。

そして翌日の朝稽古を最後に、白山道場ともお別れです。そして、私のスーツケースはというと、朝稽古から戻ってエドアルド家でシャワーを浴びている間にマイテさんが届けてくださいました。何から何まで行き届いた細やかな心遣いの方々なのです。そして、その夕方、いよいよチリを発つ時がきました。平日にもかかわらず、空港まで大勢の方が見送りにきてくださり、涙、涙の別れとなりました。

帰りのフライトは行きより随分短く感じられました。ところが成田に着いても最後の最後までトラブルに見舞われ、経由地のトロントに止まっていることがわかりました。翌日の同じ便で成田に運ばれたスーツケースは二日遅れで我が家に届きました。中にはお土産のピスコと一緒に、盛りだくさんの温かいチリの思い出が溢れんばかりに入っていました。たった2週間の滞在でしたが、今、私の中でチリは一番近い国になっています。



南米チリ A K I 本部武田義信師範 オープンセミナーに参加して 東戸塚本部道場 上田 興文

昨年2011年は2月に明治大学体育会合気道の台湾合宿、4月にインド旅行に合わせインドのニューデリー合気道道場との交流、11月に武田師範八段のご配慮により大学同期の壺内師範六段とチリ合気道のA K I 合気道本部武田義信師範オープンセミナーに参加させていただきました。貴重な体験をさせていただきました。

南米のチリは開発途上国の東南アジアの国々と同じくらいかと想像していましたが、チリ合気道の白山道場のある首都ニューデリーはスペイン系といながら街づくりはイギリス、フランスに学び緑の多い美しい街です。チリ人口の約3分の1の500万人が集中し生活環境は日本と同等以上に見えます。

治安は富裕層と貧困層と二極となり各住宅は高い柵と二重ロックとなっており、ホテルも二重（二ヶ所）ロックでしたがラテン系の陽気な明るい国民性で明るく生活されているようです。

チリの合気道は日本から入り約25年位になるようで多くの先生方にお世話になっているとのことでした。

ここ5年ぐらい前からA K I 合気道武田道場の合気道文化に魅せられお世話になっているとのこと、総ガラス張りの白山道場は稽古開始前は競争で嬉々として雑巾を両手で畳みの芽に沿って拭き掃除を行い、稽古前の身体慣らしも東戸塚本部道場と同じで日本人より日本人らしく日本武道の「礼に始まり、礼に終わる」の精神を実践されていました。

チリの白山道場の指導者に合気道とは何ですかと問うと、即座に「心」ですと答えてきました。稽古は大きな気の流れの中で楽しく美しく稽古されており受身は相当なレベルです。

稽古密度は我々日本人より多く白山道場の1週間の稽古スケジュールは次のとおりです。

月々土曜日まで15回の稽古日数がありますが、土曜日の午後から日曜日は稽古は組み込まれておらず家族サーブスで宗教上の形とはいえ生活を楽しんでいます。